

お知らせ

四月例会

期日…立教 187 年 4 月 25 日
時間…15 時 30 分受付 16 時開始
会場…教庁 4 階講堂

学生層育成者講習会

日程・会場案内

直属 櫻井 4 月 24 日 12 時〜 大教会

報告

二月例会

去る 2 月 25 日、教庁 4 階講堂において「2 月例会」を開催。出席は 28 教区、94 直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】

- ・滋賀 2 月 2 日 教務支庁 幸田真生委員出向 30 名
- ・大分 2 月 3 日 教務支庁 西川寿一委員出向 50 名
- ・山口 2 月 3 日 教務支庁 東井申雄委員出向 30 名
- ・東京 2 月 4 日 教務支庁 清水慶政委員長出向 60 名

業務記録

《立教 187 年 2 月 16 日〜3 月 15 日》

- 2 月 16 日 事務局連絡会
- まなびばチーム会議
- 24 日 担当者活動部部会
- 25 日 委員会 例会
- 広報室会議
- 27 日 春の学生おちばがえり
- プロジェクトチーム会議
- 3 月 2 日 学生生徒修養会大学の部
- 直前研修会（3 日）
- 4 日 学生生徒修養会大学の部
- （8 日）
- 9 日 学生生徒修養会
- 高校卒業生コース直前研修会
- 10 日 学生生徒修養会
- 高校卒業生コース（12 日）
- 13 日 委員会
- 人材育成部部会
- 学生連絡会
- 14 日 高校の部研究室
- 春の学生おちばがえり
- プロジェクトチーム会議

- ・京都 2 月 11 日 教務支庁 越智久輝委員出向 17 名
- 【直属学生層育成者講習会】
- ・阪東 2 月 3 日 大教会
- ・網走 2 月 12 日 大教会 宗岡真雄委員出向 80 名
- ・網走 2 月 18 日 大教会 西川寿一委員出向 100 名
- ・置田善道委員出向 107 名
- ・嶽東 2 月 20 日 大教会 清水慶政委員長出向 224 名
- ・松阪 2 月 20 日 大教会 飯降好助委員出向 100 名
- ・笠岡 2 月 21 日 大教会 西川寿一委員出向 132 名
- ・双名島 2 月 22 日 大教会 山田作雄委員出向 50 名
- ・生野 2 月 23 日 大教会 松森芳夫委員出向 120 名

人事

《立教 187 年 2 月 25 日付》
【直属学生担当委員長辞令交付】
・藪田道寿（明城・明四十一）

「魅力を伝えて」



先日、小学 2 年生の娘とお風呂に入って

いた時のこと、娘は髪が長いのでシャンプーをするときはいつも手伝っていたのですが、いつまでも親が手伝うのは本人のためにならないと思い、自分でやってみるよう促しました。すると思ったより上手くできていました。私は娘に「ちゃんと洗えたね。これからは自分でできるように頑張ろうね」と声を掛けました。すると娘は「うん！ 私、天理高校に入りたいたいから頑張る」と言うのです。

最初、なぜ天理高校が出てくるのか分からなかったのですが、すぐに気付いたことがありました。それは中学 1 年生になる長男に伝えていたことです。私はおちばの高校で学び、親元を離れて寮生活を通して経験したことが自分の信仰の土台となりました。ですので長男にぜひともおちばで学んでもらいたいと思い、事あるごとにその魅力を伝えていたのです。娘はそんなやり取りを聞いていて、いずれ自分も思っ

人材育成部 部長

幸田 真生

てくれたようです。寮に入るには自分で何でもしないといけないと感じての「私、頑張る」発言だったのです。親として大変うれしい気持ちになりました。しかし、その気になつてくれたからこの子は大丈夫と放っておいてはいけません。気持ちを持ち続けてもらえるように根気よく魅力を伝え続けることが大切です。そして、その魅力は経験した人だからこそ伝えることができると思うのです。

令和 6 年 学生担当委員会 活動方針
「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

学生担当者報 4

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉
Vol. 446 立教 187 年 2024 年 3 月 25 日発行
TEL 直通: 0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp
TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

「立教百八十七年学生生徒修養会 大学の部」開催報告

去る3月4～8日にかけて「学生生徒修養会 大学の部」を開催。585名の大学生が受講した（スタッフ237名）。

昨年と同様、参加回数で分けて、全学年を混合させた班体制をとり、「みのり塾」（12母屋）、「いさみ塾」（7・8・9母屋）、「よふき塾」（38母屋）、「まこと塾」（高安詰所）の4塾体制で実施した。お引き寄せいただいた学生たちは、共同生活を通して絆を深め合いながら、『かしまのかりもの』ご恩について考えよう』のテーマのもと、共に語り合い、励まし合いつつ、親神様の懐に抱かれながら、教祖のみ教えに触れる充実した5日間を過ごした。

初日。緊張と不安と期待が交差する中、開講式を迎えた学生たちは、その後、各塾での心をほぐす楽しいプログラムを通して同じ班の仲間やカウンセラーと交流を深めながら、次第に打ち解け合った。

学生担当者報

2日目。学修最初の『講話』（塾別）では「信仰の喜び〜かしまのかりものを台として〜」と題して、親神様のご守護やお働きを学んだ。

3日目。『全体講話』では「元の理に込められた親心」を聴き、親神様のご守護や私たちにおかけくださっている親心、真心の大切さを学んだ。その後のふりかえりを経て、4日目の『塾別感話』に向けての原稿を作った。

4日目。『塾別感話』では前日から真剣に悩み考えた原稿を発表し、それぞれが感じる恩についての考えを共有した。また、四つのテーマの講話から一つを選ぶ『選択講話』では、それぞれの立場で道のご用に活躍される講師陣のおたすけ話に聴き入った。

最終日。『塾長講話』では期間中に学んだ内容をこれらの生活に活かしてもらいたいというメッセージを送り、『閉講式』では、表統領・中田善亮先生よりご挨拶を頂き、受講生に修了証書が授与され幕を閉じた。

このたびの学修で受講生のみならず、スタッフ一同も、かしまのかりもの大切さを再確認し、親神様の親心を感じる5日間を過ごした。誠の心で人材の育成につとめる中で、「共に育つ」道の育成の精神を見落とすことなく、今後も信仰を伝える学修の発展に努めていきたい。

学生担当者報

「立教百八十七年 学生生徒修養会高校卒業生コース」カウンセラー感想文

私は、高校卒業生コースでのカウンセラーとして参加をさせていただき、特に印象に残った出来事が二つあります。

一つ目が、学修のスタッフだからこそ、学生を学修にお誘いしたいと思い、声を掛けさせてもらいました。一人の大学生が、学修大学の部に参加してくれることとなりました。しかし、受講初日で体調が悪くなり奈良県内の自宅までスタッフの方に送っていただいたと聞きました。忙しい中にも関わらず送迎をしてくださり、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。けれども、

最終日前日に、その学生が学修に復帰したと連絡が来ました。その後、学生に学修の感想を聞きました。「全プログラムは参加できなかつたけど、スタッフの人が優しく、いつか自分もスタッフをやりたい」と笑顔で伝えてくれました。スタッフさんの良いところをおかげで、その子に声を掛けて良かったと感じました。

二つ目が、高校卒業生コースが始まり夕つとめの時、班に怪我で身上の男子生徒が

いたので、生徒の一人におさづけを取り次いでもらいました。その生徒は、実はよくなくなってからの初めてのおさづけだったそうで、そのきっかけとなりうれしく感じました。取り次いでくれた生徒とは別の生徒が「じゃあ、明日は俺がやる」と名乗りをあげてくれました。その生徒も、まだおさづけを一回も取り次いだことがなく、取り次ぎ方を伝えさせてもらい、次の日、無事に初めてのおさづけを取り次いでくれました。

最終日のグループタイムでその2人の姿を見て、女子生徒が「私もようぼくになりたい、天理教をもっと知りたいし、なんか、お道って良いと思った」と言ってくれて、うれしくて泣きそうになりました。

今回の学修を通して、学修はどんな学生でも受け入れてくださる懐の深さと大勢の方の誠実を感じました。また、学生の心の変化を間近に感じ、喜びと感謝をさせていただく機会となりました。誠にありがとうございました。



QRコード読み取り

明日につながる 学生WEBSITE Happist

https://happist.net

- お道の教えや心にグッとくるお話をご紹介
- おどばの行事情報や各地の学生会情報も充実
- 「Happistスマイル」では学生の笑顔をお届け

学生に手渡しできるリーフレット HAPPIST [NOT] NET

毎月25日発行。例会資料としてお配りしています。部数のご変更は学生担当委員会事務局まで。

「立教百八十七年 学生生徒修養会 高校卒業生コース」受講生アンケート抜粋

○身の周りのつながり、人付き合いを大切にしたいし、お道にずっとそって行きたいです。喜びをたくさん見つけてこれからも天理を大切な場所ふるさとして歩んでいきたい。

○本当に参加して良かった。最近はお道から離れてしまいがちで、家のおつとめに参加できていない日々が続いていましたが、やっぱり日々生きていることへの感謝の気持ちをおつとめで神様に伝えさせていたくれたためにも、おつとめはちゃんと参加して行きたいと思った。

○来るたびに知り合いが増えるし、何回来ても楽しい期間を過ごすことができるのでとても良い経験になるなあと

思った。また、お道についての自分の考えを再確認することができるし、友達やカウンセラーさんの考えを知ることができると良いなと思いました。

○天理教についてたくさん話せたり遊べたことで人生の分岐点になったと思う。特に今まで抱えていた悩みを吐き出したので感謝してもきれない。陽気ぐらしに向かってもっと頑張りたいと思った。この経験を持ち帰って、普段の生活を過ごしたい。

○はじめは緊張したけど班の人たちは温かくとても楽しかったです。私の過去や未来について見つめることができてとても良い3日間でした。

○同じ考え、悩み、境遇の子と共に寝食することが新鮮な経験で、仲間に合わせて生活することが意外と難しかった。時間が経つごとに班・組の子と仲良くなれて解散するのが寂しいです。

○最初は初対面の人と話したり、一人で来たこともあつても不安の中参加して、メンバーに出会って恩を与えてくれたり温かさを感じることができてありがたいことだと思いました。これから就職で学生としておちばに行くことはないけど、自分なりに天理教と向き合っていきたいと思いました。

○参加して良かった。天理教について改めて知ることができ、色々な境遇の人と関わる機会ができて良かった。短かったけど、充実した3日間を過ごすことができた。大学の部も参加します。

「立教百八十七年 学生生徒修養会 大学の部」受講生アンケート抜粋

○3年生女子
ご恩やありがたさは他者から教え諭されるものではなく、自ら気付いてはじめて理解できるものだと思います。

○4年生女子
お道の素晴らしさや信仰しているありがたさを感じ、学ぶことができた。同じ年代の仲間がたくさんでき、とてもうれしかったし、お互い学ぶことができてすごくありがたい時間だった。素晴らしい教えだと心から感じられるから、この思いや学んだことを忘れずに生活していきたい。

○1年生女子
最初は不安だったけど、みんな優しく楽しめた。親神様はずっと私たちのことを見守ってくれていて、真心を尽くしてくれて感謝を忘れてはいけないなと思いました。

○1年生男子

今回の学修に参加してみて改めて天理教に関わる話や、十全の守護などを聞かせてもらって、もっと自分が人を助けるようにできることを見つけていきたいと思いました。来年の学修も楽しみにしています。

○2年生男子

さまざまなプログラム、またその間を班のメンバーと過ごす中で、お道の教えを同世代の仲間が信仰しているのがうれしくなりました。また、親心についても考えていきたいです。

○1年生女子

自分のお道に対する意欲が今までよりさらに上がりました。お道につながっている人にしかできない、ささいな喜びとかご守護がいっぱいあって、それってすごくありがたいことだと思ったのでこれ

からの信仰の中でたくさん感じていきました。

○2年生女子

かしもの・かりものについて学ぶことができた。特に感話では自分のこれまでを振り返ってみて文章にして伝えたことが今までになかったのですごく良い体験になった。

○2年生女子

天理教の魅力を改めて感じました。どんなことも楽しんで通ることが大事ということ、神殿は親に会いに行くような気持ちで行ってもいいよってことも感じさせていただきました。また、班のみんながそれぞれの視点で天理教について考えていることを知って、新しい発見がたくさんでした。改めて信仰できていることがありがたいな感じます。

「立教百八十七年 学生生徒修養会 大学の部」カウンセラー感想文

私は今回の学修で初めてカウンセラーのご用をつとめさせていただきました。事前研修会でカウンセラーと伝えられてから本期間までの約1ヶ月、「学生さんたちに喜んでもらえるだろうか」「少しでも信仰の喜びを感じてもらうことはできるだろうか」と悩み続け、その不安を拭う気持ちで少しずつにいがけに歩かせていただきました。ご用で天理にいたこともあり、学生時代に一人暮らしをしていたアパートを訪れると、1人の学生さんと出会いました。少し話した後、「学修に参加しますか?」と聞くと「はい、行きます!」と言ってくれたので、「ありがとうございます!」僕もスタッフだから待ってるね」とその場を後にしました。実際に参加してくださる学生さんを目の当たりにし、「よし!」と気持ちが切り替わり勇んだことを覚えています。

迎えた学修当日、緊張しながら学生さんを待っていると、先ほどのにいがけで出会った学生さんが私の班に来てくれました。しかも私と同じ誕生日で、学生時代の学科も同じ。言い表しようのない不思議なお引き寄せに、教祖がそっと背中を押してくださっているように感じました。期間中は驚きの連続でした。グループタイムで班のメンバーと対話を繰り返し、お話を聞いてはまた対話を繰り返す中で、どんどんと主体的に信仰について語り合ってくれる学生さんの姿。最初は参加したくなかったけど、日を追うに連れて、涙を流しながら自らの悩み、信仰の喜びを打ち明けてくれる学生さんの姿。目の前に広がるその景色に「ああ、教祖はきっとお喜びくださっているだろうなあ」と私も涙を堪えることができませんでした。今回の学修を通して、学生さんたちと共に育つ中で感じ学んだことを、これからの日々を活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

青空

学生時代は地元で過ごしながら、一度も学修に参加したことのなかった私ですが、現在本部スタッフとしてお引き寄せいただき、お育ていただいている真つ最中です。初めて学修スタッフをさせていただいたとき、こんなに多くの人の手が、心がかかって、おちばで、喜ばさずにはかえせんという思いで開催される行事に、多感な時期を生きる学生さんがとても感動しました。こんな気持ちを味わってもらいたいと翌年大学生のいここに声を掛け、参加してあげたいとは今年、弟を誘って一緒に参加してくれました。三年千日二年目の頭から、私自身にいろいろと見せていただき、一層学担のご用に心を向けるよう引張っていたいたいた気がしています。かけていただいている親心に少しでも応えさせてもらえるよう、日々の心遣いを大切に、出会わせていただく仲間や学生さんと心を合わせ、楽しんで通らせていただきたいと思います。人材育成部本部スタッフ 今泉 まさえ

「立教百八十七年 学生生徒修養会 高校卒業生コース」開催報告

3月10日から12日にかけて、『学生生徒修養会 高校卒業生コース』を開催。受講生268名(スタッフ185名)が参加した。本コースは、進学や就職などそれぞれの道へと進む大切な時期に、親神様のみ教えを学ぶ中で、親神様、教祖はもとより、親やこれまで自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちに気付いてもらうと共に、同世代の道の仲間とのつながりを深めることを目的に企画された。

初日は、『開講式』にて本部長・田中善吉先生より挨拶を頂き、また学生担当委員会・清水委員長挨拶を聴いた後、グループタイムを通して、お互いのことを知り合う時間を過ごした。2日目には、自分自身の過去を振り返り、多くの人に支えられてきたことに気付くことをねらいとしたグループタイムを行った上で、本部准員(此花大教会長)・田邊大治先生より「親神様のご守護」と題した講話を頂戴した。その後『ふりかえり』の時間では、それぞれが感じる親神様のご守護について語り合った。午後からの『組別行事』では、お楽しみ要素を盛り込んだプログラムを行い、

和やかな雰囲気の中で、班員以外の仲間とも親睦を深めた。『班タイム』では、神殿や神苑のひのきしんを行う班、記念建物を見学する班、市中の清掃ひのきしんを行う班、屋外で昔ながらの遊びに興じて親睦を深める班など、班ごとに主体的に計画した活動に取り組み、有意義な時間を過ごした。夜には、『班内感話』を行い、自分の信仰や夢について真剣に語り合った。

最終日には、主任より「明日の君たちへ」と題した講話を聴いた後、振り返りを行うとともに、この3日間学んだことを再確認した。そして、み教えを基にこれから先の人生を生きる上での決意を記し、封筒に入れて持ち帰った。それぞれが新生活をスタートする時に開封し、学修で学んだこと気付いたことを今一度思い起こして、今後の日々を活かしてもらうことをねらいとするものである。

最終日。『閉講式』において、表統領・中田善亮先生より一同に対しお言葉を頂き、その後、代表者に修了証書が授与され、2泊3日の、短いけれども内容の濃い高校卒業生コースは幕を閉じた。